

令和7年度タウンミーティング懇談録（大穂）

日時：令和7年5月24日（土） 10:00～11:30

場所：大穂保健センター

参加者：市長 ほか 参加者12名

＜懇談録＞

○参加者1

私、前野在住の参加者1と申します。発言の機会を与えていただきましてありがとうございます。まずは市長にお礼を言いたく、タウンミーティングに初めて参加させていただきました。3月末に市長とお会いしているんですけど、身に覚えは。

●市長

花見。もちろんです。

○参加者1

そうですね、そのときにお願いしました前野小学校の校門のクスノキの件なんですけども、連休前に対応していただきました。決して満足というわけではありませんけども長年の悩みが一歩前進したことに対して、御礼申し上げます。

●市長

教えてくれてありがとうございました。

○参加者1

そこで今回の例を継続した取り組みとして受けとめていただきたく、要望したいと思います。つくば市、市長をはじめ、多種多様な取り組み、模索・計画されていることは存じ上げております。御苦労様でございます。新たな取り組みや公共施設の充実・新設は当然評価しますけども、既存施設の老朽化耐震化対策など、それらで働く職員の職場環境も改善されてるように受けとめております。私が言いたいのは、施設の内々というか、内側の箱物の環境改善だけではなくて、施設に隣接した周辺住民の、生活環境維持、管理、そちらに配慮を、取り組んでいただきたい。特に今回の例じゃないですけども、樹木の剪定や伐採、除草作業を周辺へ周知とともに計画的に実施していただきたい。市長さんはなんか、以前

街路樹の樹木伐採とか、みどり推進っていうのは先ほども紹介がありましたけども、学校の例で言うと、今年度校長先生も異動しました。地域住民も校長を選ぶことはできません。先生方は勤め人で定期的に異動して入れ替わってしまい、環境、周辺環境が及ぼす迷惑を訴えてもなかなか迷惑かけますとか、市には予算がないなどの言い訳にしか聞こえない形で前向きとは受けとめられませんでした。今回剪定業者の人の対話を試みて、以前別の学校では、校長先生が神経質なくらいに、校庭の樹木に対して、子供に怪我をさせてはいけないという配慮をして積極的に行動に移したっていう校長先生もいたようです。またその他にも、学校の樹木の、防虫、殺虫、消毒散布ですね。それが、近年全然実施したのを見てないんですよね。以前は早朝朝早く、桜の木とかは消毒をしてたんですけどもういう形跡が全然見られません。桜の木は特に毛虫がつきやすくて、対策してなくて子供が近づかないように学校側でロープを囲ったり、市販の殺虫スプレーで退治してるという学校側の返答を受けてます。桜伐る馬鹿梅伐らぬ馬鹿と言いますけども、片や桜の木にも寿命というのがあると思います。だいぶ根本がスカスカの、だいぶ、老木で、倒壊への危機管理はどうなのかなと受け取っております。先生方は通ってくるだけで朝通ってきて、夕方には帰宅します。先生方からすれば現在の職場にしかすぎません。ただ、周辺住民はずっとそこに住み続けているわけですから、今後も住み続けるにあたって、最近の気象上、異常気象などにより想定外の被害が発生するかもしれません。ぜひ周辺住民の生活環境を脅かすことのないような取り組みをお願いしたい。落ち葉や枯れ木は真下には落ちません、風で吹きたまて、生活道路を散らかして通行者への危険もあり得ます。ぜひ職場環境改善や花壇等の植栽も必要でしょうけども、周辺地域の環境美化にも目を向けて欲しいということでございます。市民、住民からの声がいろいろ日々あるとは思うんですけど、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。すみません。長くなりました。

●市長

ありがとうございます。先日もね、教えていただいたおかげで、ずっと御苦労をされてきたという話でしたし、満足いくまでではないという率直なお気持ちだと思うんですけども、一緒に立ち会っていただいてですね、対応してくださったということで、こちらからもお礼申し上げます。あの木であったり、街路樹についてまずお話しすると、今お話いただいたように、私、街路樹については、基本的には、切らない方針というのをですね、作りました。まあ道路の街路樹ですけれども、それなぜかというと私が就任する前に作られた計画で、もういわゆる中心部の街路樹の木がほぼすべて伐採される計画だったんですね。それは、何か暗いとかですね。歩道の拡幅をしなくちゃいけないとかそういうことではあ

ったようなんですけれども、ものすごい数があって実は吾妻の一部は切られてしまつたんですけれどもやっぱり今そこは非常に、貧弱な状況になつてしまつていて、木もですね、ちっちゃいのが生えていますけれども。街路樹はまちのひとつの中の成熟の証だと思っていますし、もちろん、緑、環境面もそうですし、例えば車いすの人たちからすると日陰が、高齢者の方もそうですけど、日陰が確保できるというのはすごく大きく、やっぱりこの、木をどう大切にするかというのは、私はまちにとっては、すごく大事だなと思っています。一方で、絶対切らなければならないというと、そんなことはなくて今お話をあつたように、危険性のあるものというのはもうこれは切らざるを得ないということはたくさんあると思っています。例えば、交通事故が多発している、それはなぜなら、そこに街路樹があつて、もうその街路樹がね、障害になって、対向車が全然見えないようなケースがあつて、明らかに多発しているようなところがあります。そういうところはもう、これは切らざるを得ないということで切っています。ですので、全く切らないということではないです。今回のような、皆さんの環境というのは本当に大事だと思っています。私のところにも、やっぱり樋が落ち葉で詰まつてしまつた、枝が落ちてきて、なんていう話は、たくさんありますし、そういうのは、もう本当、適宜、なんて言うんでしょう、まとめてこうするとか、まとめて切るとかまとめて切らないじゃなくて、個別の御相談に応じて出来るだけ丁寧に、一緒に現地を確認して、市としてできる範囲とですね、できることというのを、お話をしながら、今回のような形でやらせていただきますので。今後も、まさにその地域の交流センターに、またこう、何か害が多かつたりすることがあれば、お話をいただいて、我々当然ね、学校の周りで、子供たちをこうやって見守ってくださる皆さんのお環境というのはとても大切だと思っていますので、そこは、とても大切にしていきたいので、ぜひ、迷わず御相談をいただいて、いやちょっとそれはってことも出てくるかもしれませんけれども、対応はできればなと思っていますし、それこそ、もし、中がスカスカになっているような木は、もう、たまに倒木ですね、公園の駐車場に倒れてきちゃってなんて、そういうときはもう、その辺にある調査をして、かなり根腐れをしてたりですね、いろんな虫が入ってきて倒木の危険性があるのは切るというようなことはやっていますので、おっしゃるとおり、桜の木も寿命がありますし、他の木も寿命があります。一方で桜の木なんかだと、同じ町内の中でもですね、切るべきという人と、絶対切るなという人と、中でも割れたりするので、そういう時は、区会の皆さんのお力をいただいて、区会としての総意をまとめてください、というようなことはお願いをしていました、これは市で、強制的に決めるよりはそこでまた皆さん対話をしていただければいいなと思つたりしています。ぜひ、今後もできるだけいい環境を、それぞれの場所につくりたいと思っていますので、何か気になることがあれば何でも御相談い

ただければ。ありがとうございました。

○参加者1

ありがとうございます。

○参加者2

20代で、大曾根に住んでます。参加者2と申します。いつも市政お疲れ様です。ちょっと、お聞きしたいというか、今後どういう方針なのかなというところがあつて、今、僕、妻が妊娠していてこれから子供が生まれるんですけど、ちょっと国とかの話になっちゃうかもしれないんですけど、外国人との共生についてちょっと気になっていて、今、つくば市は研究所だったり、大学だったり、比較的そういう罪だとかを犯しづらい人が来ているのかなと思うんですけど、一方でその地方とかは、なんて言うんですかね、一時的に働いて帰国してその技術を使って自国で、というような、そういう取組がされていると思うんですけど、そういう人が増えていくと思うんですけど、文化的に違うところもあるので、なかなかいろいろ合わない部分とかもあると思うんですけど、そういうところって何か対策とかを検討されているのかなっていうのがちょっと気になります。

●市長

ありがとうございます。すごく大事なことだと思っていまして、例えばこの近くだと、最近ね、会社の寮がここにできて、花畠ですね、かなりたくさんの外国籍の方が、急に増えたりしますけれども、外国人との共生というのは、つくば市でも、実はすごく力を入れてる部分で、そのために国際都市推進課というのを作ったんですが、別につくばを海外に発信するとかということもあるんですけど、そういうこと以上に、今つくば市に住んでいる外国人と、日本人がちゃんと、本当に共生をしていける街を創ろうということで、取り組んでいる。具体的に今、まさに始めていくものは、文化の違いとか、そもそもよくわからないまま来る人がたくさんいるわけですよ。その皆さんに対して、まず、子供たちが学校で苦労したり、お互いの文化が違ったりするわけで、プレスクールというですね、学校、例えば、どこかの国からつくば市に引っ越して来ますと。親が働きますと。子供たちいきなり学校に入れても、言葉は全くわからないケースがある。英語もわからない。そもそも学校にどれぐらい行くのかもわからないので、学校に入る前の数ヶ月、そのプレスクールに通って、日本の学校ってこういうことですよとか、もちろん、日本語の基本的なこういう言葉がありますよとかですね、あと社会で、その地域のルールってこういうものですよみたいな、基本的な情報をまず、

子供たちに学んでもらって、学校に入っていく。子供から親に伝えてもらうっていうのもある、というのが、今年度、実は始めていこうと思っていまして。それは、受け入れ側の日本人にとってもすごく必要なことだと思っていて、結構学校でも子供たちが、いろいろな違い、戸惑ってそれは文化体系としては、必要なことだと思いますけれども、やっぱり、たまにね、上手くいかないケースが出てきちゃいますので、それをまず入ってくる子供たちも、ちゃんと日本のこと学んでもらってから来てもらうと。でもそれだけだと親の問題がありますので、親向けには、国際交流協会というところで、大人向けの日本語教室なんかをやってくれてるんですけども、まだまだですね、ほんとに一部だと思います。今実は、これも新しく始めようと思っているんですけど、民間の企業で、例えばこれはインドの方がすごくたくさんいる、エンジニアをたくさん抱えている会社なんですけども、そこはもう会社として、その社員さんと家族さん向けの日本語教室をやってるんですね。その会社で、実はそこにも、市も一緒にやらせてもらって、どんどん他の会社の人なども一緒に入ってもらって、言葉をまず学んでもらうという。言葉を学び、同時に日本のルールであるとか、ごみの問題なんかも結構よく問題になるんですけど、そういうことを学ぶような機会をもっとこれから増やしていくならということで、ちょうど、その会社の社長とですね、先日も意見交換をして、じゃあ今すぐにやってる日本語教室があるのでそこでやっていこうと。なぜ語学にこだわっているかというと、やっぱり言葉っていうと最初の一歩で、日本語なんか学ばなくていいじゃんっていう方もいるんですけど、やっぱり地域で共に暮らしていくためには、言葉、日本に来たからには、日本語を学ばないと本当の意味で共生ってなかなか繋がっていかないということは思っています。これは私だけが別に言っているわけじゃなくてちょうど国連難民高等弁務官ですね、昔緒方貞子さんがトップをやっていたところですけれども、その人が来てですね、市内に実は避難している子、世界の子供たちがいるわけですけど、その若者たちと色々話をしながら、やっぱりとにかく君たち言葉をやりなさいと。それは、このつくばの地で暮らしているんだから、まず大変でも日本語を学びなさい。というようなことを結構優しく話をしていて、それはなぜなら、地域で生きるということはそういうことで、そこから文化を知り、そこで新たな繋がりが生まれれば、あなたたちも幸せになるんですよというようなことを話をしていて、まあそのとおりだなと思ったんです。ですので、お言葉をちゃんと学んでもらって、日本のルール、日本の文化、生活習慣なども学んでいく機会というのを、これからどんどん増やしていきたいなと思っています。ただ、外国人だから犯罪みたいな、そういうレッテル貼りにはならないようにしたいなと思っていますので、この間もクルド難民なんかも川口で、なんて話が出ていますけれども、河野太郎さんがそこに行って、実態はちょっと違いますよみたいなツ

イートをされていましたけれども、そういうことも含めてみんなで生きていくためにはどうするか、もちろん、犯罪があればそれは厳正に警察が対処しますけれども、地域でちゃんと日本のこと学んでもらいながら共生していく街にしていきたいなと思ってはおりますが。お答えになつていいでしょうか。お子さん楽しみですね。

○参加者2

ありがとうございます。

○参加者3

参加者3と申します。前、返答をもらったんですけど、抽象的でちょっとわからなかった。

●市長

すみません。

○参加者3

まず、現場がな、今農家の遊休で草がどんどん生えてる。それで返されてしまったけど、昔は、おらが時代だから、高校にも農業科とか生活科とか、そういうところもありましたけど今はないし、普通科と、商業科と工業科しかないです。だからもともと農業、親の財産というのは負の財産つって、みんな子供らも、未来があるとかっていうのかな、もう新しいところに出ちゃって、我々年寄りだけが残って。ゆくゆくは、国の財産市の財産の固定資産税になっちゃうのかなと思うんだけど、なんていうかな、農業が昔やってきた高校が、そういう専門学校も、つくば、この県南地区にもそういう学校を作っているはずだから。まあ10年先、20年先になるかわかんないけど、今の時点では、農家なんていうのはね、と思います。みんな、まず現場を視察してもらえると。気になっちゃうんだよ。市長はいいとこ住んでるから。農業改革政策があったわけね、つくば地区。そこが5年先、10年先見据えて何かやるといいかなと思います。以上です。

●市長

はい。ありがとうございます。農業、そんないいところ住んでないですけど。実は私の家の近く、今から私10数年前に、障害のある人が働く農場を立ち上げました。それはまさに、農業の担い手がいないっていう問題がすごく大きくて、それを障害のある人が、障害あるといつても、別に農業できないとかでは全然な

くて、実はすごい力を発揮するわけなんですね、それぞれの特性にあった仕事があれば。ですので、それで今もうその農場では、100人以上の人人が働いていて、今大体、全部でいうと100品目ぐらい作っているんですけども、例えばね、キャベツでも何種類かそういうの入れると100種類くらい作っていて、市内はもとより、全国でやって、もう、私は経営は一切離れているんですけども、それはまさにその農業を何とかしなくちゃいけないという思いが一つありました。実際にそこでは、今、畠地だけでも6ヘクタールぐらいで、農薬使わないで野菜を栽培しているんですけども、基本的には、荒れてた土地、放棄してしまった土地などを、結構借入をしてやっているか、あるいはもうこれ以上はできないから、なんとかやってくれないかと頼まれてやっていたりして、そういうところから、茎崎では、田んぼをやってたり、上郷では場所を借りて養鶏をやってたりして、地域の皆さんと色々な話をしながらやっているのですが、農業をする人を増やすことはすごく大事だと思いますし、ただ、なかなかね、農業、荒廃農地を何とかするために新規参入しませんかと言っても、新規参入する人はそもそも、そんな、荒れた土地じゃなくて少しでもいい土地をっていうことになってしまうのがあって、その解決っていうのはなかなか容易じゃないと思っていますが、その一つの解決策は、私は自分でその事業やってきたわけですから、もう一つ、最近結構感激した事例としては、我就任してすぐにつくば市でワイン特区というですね、ワインを、国の規定よりも少ない量で認められるような特区をとったんですね。栗原という地区が桜地区にありますけれども、そこを使ってワインのブドウを作って、醸造していた方が、教えて、ブドウづくりを。その隣に、ものすごい広いワイン畠をつくったんですけど、そこは本当に、地域の人もそこに一緒に来てくれて、そのオープニングの時に。もう、周り見たら、こんなたかい雑木みたいになっちゃっていて、荒れ放題の状況なんですね。私行ったときはもうワイン畠が広がっていたので、綺麗な土地ですねと言ったら、「いや、ここもあんなだったんだよ。ついこの間までは。」こんななってて、もう人なんか入れるような状況じゃないところを、そうやって手を入れることによって、地域の皆さん方が本当に喜んでいたんですよ。「これならよかった」と。ですので、それなりに大規模で入ってくれるような、そのワインも新しく畠始める方は、日系ブラジル人の方なんですね。東京からつくばに、移住をしてですね、そこで始めていくんですけども。そうやって、結構いろいろビジネスをやってしたりした方なんかが、地域に入ってきたり、あるいはうちの農場は、一旦置いといたとしても、比較的事業体としてやるくらいの規模のほうが、遊休農地の解消には繋がっていくんじゃないかなと思っています。農業者を増やす取り組みというのも、すごく大事だと思っていますので、農業高校もね、本来もっともっと評価されるべき、私専門学校であるとか、工業高校もそうだし、商業高校もそうだし、

農業高校もそうだし、もっと本当はみんな活用したらいいし、行ったらいいし、それが結局地域のね、雇用に繋がってきてたわけですね。例えば、工業高校行って、機械を学んで、地域の自動車会社に行くとかですね、商業高校で学んで、地域の会社の経理になると、そういうことがあったんですけども、どこに行っても人材不足ということを地域の皆さんから言われるわけですよ。それは比較的そういう専門性のある学校が、そういう人材を地域に送り出す機能を担っていたのに、良いか悪いかというか時代の流れで、全部普通高校になっちゃってですね、そうすると普通高校に行って、就職する人が半分、大学行く人が半分。地域にね、来る人がその分減っちゃっているわけですよ。東京に行ったら、東京で、やっぱり就職をするということになっちゃいますので、地域の経営者誰に聞いても人がいない人がいないということになっていっているわけです。

○参加者3

話は変わるけど、真壁高校はあそこはとにかく素晴らしいなと思っているんだ。

●市長

真壁高校も、私も知り合いが行っていたりしたんですけども、やっぱり農業を本当にちゃんとやっていて、園芸であったり、コースがちゃんとあって、やっていましたので、なので、社会全体の流れだと思ってます。今は何となく普通高校みたいになっちゃってますけど、またもうちょっとしたら、やっぱり何か本当に学びたいものがあればそこで学んでたほうがいいよね、地域で仕事したほうがいいよね、みたいな流れも、何かのきっかけで、何か再評価されるようになるんじゃないかなというようなことは、思ってます。さすがにこうね、やっぱりいい大学に少しでもみたいな風潮がちょっとね。20年前と比べれば今はずいぶん違ってきて別にいろんな選択肢があるよ、通信制の高校、S校の誘致などもしましたけども、そういう選択肢がいろいろあるということが分かってきたので、でもまだ、やっぱり根強い学歴志向みたいのがあったりしますけど、そういうものでない流れを作っていくらしいなと思っているところです。お答えにあんまりなっていませんけど、短期的な解決策はないんですが、ただ、その、ワインの事例は、ほんとびっくりするくらい広いところが、農地というよりは、山林みたいになっちゃってたところを、伐根したりしてですねやってくれたりしましたので、そういう流れを、これからも作っていきたいなと。自分でもやっていましたので、決して軽んじていないですし。すごく大事な部分だと思っていますので。米は人からちゃんと買っていますけれども。残念ながらですね、いつもおいしいお米を、ちゃんと市価と同じか、今だと市価よりもちょっと安くな

っちゃってますね。申し訳ないんですけども。提供してくれたところが、いや、今までと同じ金額でいいよと言ってくださってますので。そこで買わせていただいています。

○参加者4

つくば市篠崎の参加者4です。まず冒頭に市長にお礼なんですけれども、篠崎地区は、今200大体70は超てる世帯数で大穂地区の中でも、上の方の、その中でも、区会に入ってるのが210ということで、結構新しい方の区会を新たに作って、結構積極的に加入されてるような状況でもございます。そういう中でなぜそんなに、篠崎が人気で、新しい人が住むのかというと、やはり冒頭には区域指定というのがございます。そういう人に聞くと、中心部、特に篠崎だとアクセスの一番いいのは研究学園、研究学園がもう飽和状態で、皆さん、一番近いアクセスのいいところって言ったら、篠崎らしいんですよね。そういうことで、今篠崎地区は、おかげさまで、上下水、都市計画上の一つである、上下水整備ということで、今年も、篠崎の中の、字でいえば堀之内とか向坪とかそういうところが整備されるような状況だと。まあほぼ、100%整備されて、本当に助かります。そういう中で、そういう先ほど世界の明日が見えるまち、そういう中の一つとして、地域の活性ってのがありました。やっぱり地域の活性っていうのは外から入ってくる人が多く入るのもありますけど、やはり中で人口が増える、地域の人口が増えていくのが大事だと思います。そういう中で篠崎はまさしくそういう立地条件がすごく、研究学園のアクセス、お店も近い、そういうことで人気があるということで、それがどういうところに影響してるかというと、昨日ですかね、別件でマンションに行ってきました。その前に前野小に行ってみますと、大体前野小の全校生徒の6割5分ぐらいは篠崎地区の児童なんですね。篠崎がなくなったら、前野小学校なくなってしまうんじゃないかなっていうところまで来てるんですけど、1年生も今年は21人ですかね。結構多い、地域にしては、多い人数の方が、入学されると。そういうことで、また篠崎地区的夏祭りが、子供の中心の夏祭りがあります。その夏祭りも、以前はですね、児童がいなくて、お神輿を担げない。子供の神輿なんですけど、あっても担げないという状況で、それが、最近はもう児童数も多いんで担げたんですけど、またにぎわいがね、もう以前よりも、復活しまして、大変良いことなんです。そういう中でやはり、都市計画の一つであります上下水整備というのが、それは原因であって、篠崎は、農村地域の、ちょうど農業振興外ですかね。内については、もう積極的に、結構先ほどの方とは違って、あんまり荒れているところなくて、ほとんどが耕作されている状況です。それと裏腹に、農振地区外の方なんですけど、外は要は地域の、

集落の隣接とか、中にある土地なんで、せめてそこが、今年の予定を聞くと、ほとんどがもう下水は入ってますけど、上水が整備されていくとなると、やはりその辺を、区域指定の拡大によって、研究学園の住みたくても、もうほぼちょっと住めないという中では、そういうところになることによって、そういったにぎわいも、関係するのかなということで、ぜひ市長よろしくお願ひします。

●市長

篠崎ね。人気エリアですよ。つくばの何ていうんでしょうね。結局、どういうエリアが人気エリアになるのかというと、学校の近くだけど、土地が手に入って、しかも手ごろな金額で手に入るのがすごい大事で、今もう、不動産屋さんなんかと話しても、売る土地がないと。つくば市に引っ越していくいけれども、もう、本当に土地がないということを言われます。周り首長たちからですね、別にどことは言いませんけど、いや、もうつくばに本当は住みたかった人多いんだよとかっていうことを言われたりして、いや、なんかすみませんみたいな感じですけど、ただ、それってほんとはやっぱりつくば市に住んでくれたはずの人がよそのところに行ってるっていうのは、まさにつくばで地域を持続可能にするチャンスを逃してしまっていることなんで、区域指定については積極的に指定をですね、広げています。それはやっぱり、今でもつくば人口が増えたりね、評価されてますけど、こんな、いつまでも続くわけないので、やはり今このチャンスをしっかりと捉えて、今、区域指定をもう少し拡大していかなければ、本当はつくばに住んで地域に住み続けてくれた人たちが、来れなくなってしまうので、去年は谷田部地区でですね、区域指定の拡大をしました。これでも一定の効果はありますけれども、今年度も、もう少し広い、広く我々葛城地区と広く、一応あえて呼んでいるんですけども、あんまり個別にここってやると、不動産屋さんとかが先買しちゃうと問題になっちゃうので、区域指定を今年度から広げる準備をしています。こうすることによって、その駅前とかの高い土地とか、そもそも土地がないので、ではなくて、篠崎も、住宅も新しく建ってますけど自然も身近にすごくたくさんあって、やっぱり何か綺麗ですね。良い暮らしができるような場所なわけですね。そういう場所の区域指定をもっと増やしていくというのは、もう今順次、しつこくですね、都市計画に、どういうプランでいくのかっていうのを私も直接見ながらやっていて、これから拡大をしていきますので、やはり今の、この数年がピークじゃないかと。こういう、何かつくばの皆さんのが注目を浴びてですね、どんどん引っ越していきたいと言っているので、そういうチャンスを逃さないように、どんどん拡大を進めていますので、ぜひ新しく来た皆さんも暖かく迎えていただいて。そういうのってすごく大事で、この地域って排他的だよっていう噂が流れちゃったりしますけど、篠崎の皆さんも楽しく、今までいる方も、新しく

來た方も、区会の組織率がかなり驚異的な組織率だと思います。8割近いんですか。平均だと5割切っていますので、だから、そういう状況を見れば、地域のコミュニティがしっかりとしているということだと思いますのでね。もちろん本当は地域、徐々にいろんな世代が入ってくるのが理想形ではあるんですけども、その、今篠崎で起きているようなことをこれからどんどん拡大をしていきたいなど。それで、地域の皆さん、ここで住み続けられるなと思ってもらえるようにしたいなという取り組みは今一生懸命やっています。引き続き頑張ります。よろしいでしょうか。

○参加者5

今日はこういう貴重な機会を皆さんとこの場に立てることに感謝します。自分もすごくこう、毎日なんだろうな。どうしたらこう、なんだろう、幸せな社会みたいなのに実は憧れてて、自分もみんなの幸せの社会って何だろうみたいなことを、毎日考えてるんですけど、なんか、ちょっと変な話に聞こえるかもしれないんですけど、自分をすごく観察してたときに、人って、もちろんたくさん得ることを、喜びとする性質もあるし、でも与えることというか、どちらかというと本当に、世界が平和でありますようにみたいな、どっちの心も、それぞれの中にあるんじゃないかなって思ったんですけど、僕は、ちょっと変な話、やっぱり資本主義っていうところが、どちらかというと、人の得ること、より多く得ることが人生の喜びであるっていうところに人の意識が持っていかれる感じがしていて、一見、その先に幸せがあるように感じちゃうんですけど、そうすると、みんながね、どうしたら自分が得するかっていうのを考えている限り、真の平和というか、みんなが幸せな社会っていうのとは相性が悪いなと思っていて。いろいろ考えたときにやっぱり少しずつ、僕は、何ていうんですかね、もちろん、得ることも幸せなんだけど、愛し合うことみたいな、お互い思いやりが溢れる社会がやっぱり人間の最後、目指すところなんじゃないか、というそんな変な哲学みたいなこと。

●市長

大事なことだと思います。

○参加者5

そうなったときに、ただ、現状の仕組みだと、奉仕の心というか、愛の心の方に、全振りしちゃうと、例えぱりんご100個、ゲットしたときに、困ってる人に無料でただあげますみたいな、そういうただ困った人に奉仕したいですってい

う生き方がしにくい社会かなと思っていて、ただ奉仕するのも、いいよね、素敵だよね、そんな生き方もあるよみたいに、そういう制度みたいなのをうまくつくれないかなとちょっと考えています。

●市長

すごく良いと思います。完全なね、施しをする側になると、若干宗教家的な方に、いくのかなと思うんですけど。制度として、そういうふうに、言ってみれば資本主義っていうのは、どんどん資本が資本を生み出すということなわけなんですけれども、それが利益になり、それがまた特定の人に還っていくという仕組みなわけなんですね。別に資本主義を変えるというようなことを言うつもりはないんですけども、そのヒントは私は労働者協同組合という形にあると思っていて、これも国際会議があった際にですね、スペインのモンドラゴンというところに行って、そのモンドラゴンという場所は、世界の労働組合、労働者協同組合のですね、拠点と言われていて、労働者協同組合って何かっていうと、経営者がいて、従業員がいるみたいな仕組みではないんですね。みんなが出資をしますと、みんながそこで、働くけれども経営にも参画すると。必ず月に1回は、まさに取締役会ではなくてみんなで話し合いをしてやっていくと。でももうそこは大きくなって。話し合いももうチームごとに分かれていくんですが、それが今すごく実は世界的な企業なんかも成長していますし、小さなコミュニティ、モンドラゴンであるとか、あと、ほかにも労働者協同組合で非常に強いボローニャというエリアに行ってみたりして、本当に現地で話を聞くことじゃないと全く日本って特に文献が少ない分野ですので、知り得ないことがたくさんあるわけですけれども、そこで色々なアドバイスをもらっていました。実は日本で2020年に労働者協同組合法という法律が新しくできて、日本で、労働者協同組合を作れるようになったんですね。これあんまり知られてないんですけども、私、以前からその労働者協同組合に関心を持っていたので、モンドラゴンだったりボローニャだったりそこで色々なアドバイスをもらって、つくば市で独自に労働者協同組合を立ち上げる支援制度というのを作ったんですね。そこで、セミナーをやったりですね、相談、立ち上げのための伴走支援もしたり。通常のNPOと何が違うかというと、NPOといえば、私もNPOの代表やってましたけど、代表に負担がかかるわけですね。でもそれが共同経営という形になりますので、3人以上が出資すればできるんですが、その1人への負担が少なくなって、みんなで経営をしていくと。何より大事なのは、そこでですね、ちゃんと得られた利益ですね、分配をされていくわけですね。このスペインのモンドラゴンというところは、これは教えてもらってすごく驚いたんですけども、一番給与を、いわゆる一番お金をそこで取っていること、一番取っていない人でも、その格差を、給与の格差を、

6倍以内にしなくちゃだめだという決まりがあるんですね。本当に今働き始めたばかりのまだスキルのない人も、ずっと経営をしていた人でも最大で6倍、これはもう外資系企業なんかね、とんでもない金額ですよねもちろん。もうすごい富が経営者に集中していったり、役員層に集中するってのは。さらにその国際会議も呼んでもらってですね、そのあと、やっぱりリアルな場で話をするのはすごく大事なので、そこで、別の、イタリアの地区の労働者協同組合の話をしたら、その労働者協同組合は2.5倍だと。一番働いて、一番そこで給与取ってる人と取ってない人。もう格差が、要するに小さいわけです。実はスペインのモンドラゴンという、バスク地方なんですけれども、世界の中で一番経済格差が小さい場所と言われてるんです。要するに、まさに資本主義が、これだけ拡大をして、いろいろと問題起こしてると。富が一部に集中してしまっているという状況を、そのモンドラゴンがあるスペインのバスク地方というのは労働者協同組合が、モンドラゴンの協同組合以外にたくさんあるわけですね。どこもそういう格差を少しでも減らしていこうということを考えて、その富をちゃんと分配して、その一部を教育に回していこうというのは、循環がされているので、結果として、地域の経済格差が、最も少ないエリアになっている。それって、今お話をあったように完全な与えるだけではないけれども、ちゃんと稼いだ人が、みんなで頑張って仕事したんだから、みんなでちゃんとその分け前は、分かち合おうねと、そしてちゃんと次の世代の教育、自分たちの教育まで繋げていこうねというような仕組みがちゃんと作られている。ですので、そういうものをつくば市でやっていきたいと思っていて、まだ、全国でもほとんど、労働者協同組合新しい法律で、施行されたのが、まだ2、3年前なので事例少ないんですけど、ついこの間ですね、豊里地区で第1号の労働者協同組合が誕生したんですね。3人で農業をやっていくんだけれども、別にすごい金儲けがしたいわけじゃない、地域のために貢献をしたい、地域に貢献をしながらでも稼ぎをして、それをまた、次に分配できればいいなっていうような思いでやられていて、それってまさに今つくば市が目指そうとしている姿なんですよね。誰かに富が集中するのは、望まないし、だけど地域の皆さん、だから労働者協同組合という社会課題を解決するための組織、NPOみたいな、目指すところは同じなんですね。でもちゃんとそこで報酬も得ながらですね、やっていくというような取り組みで、私汗を流していくよというようなことを言ってくれていて、農業以外でも、これからね、どんどん地域の中で頑張っていきたいというようなことがあるので、そういうものに対して、市として新しく補助制度を作ったりしてね、使ってもらっているんですけども、まさに今お話をされたような、なんて言うんでしょうね、資本主義に対する、一つの、まあこれは別に世界のあしたといつてももう既に上手くいっている事例がそこにはあるわけですけれども。でもそういうものから、じやあ日本の中で、

その課題を解決するために、どんなことが出来るかというのをいろいろ、アドバイスもらいながら、形にしていったものがこの労働者協同組合というものなので、ぜひ皆さんも地域の中でそういう立ち上げなどをしていくことの、もしお気持ちがあればですね、市役所に来ていただければ、もう相談体制とっていますので、どんどんそうやって、自分で動き出していく人を増やしたいなという思いがありますので、よろしくご検討いただければと。ちょっと長くなりましたが。すごく大事な視点だと思います。

○参加者6

つくば市の上原から来ました参加者6と申します。最初のパワーポイントの市政紹介で青い羽根。

●市長

青のカフェですかね？

○参加者6

知らなかつたものですから、でもあれば良いなと思っていたので始まったということで良かったなと思います。それから最初の方の市長さんの思いで、すべての世代の幸せ、すべての市民の幸せ。

●市長

よく見ていただいてありがとうございます。割愛したにもかかわらず。

○参加者6

じゃあ今日の私の話を聞いてもらえるかもしれないと思ってきました。最初の方もおっしゃったんですけど、周辺住民の生活環境を脅かさないで欲しいです。私も同じ事なんですけど、道の駅のことです。2月4日の新聞記事で、上原・松野木に道の駅の建設計画があるというのを見ました。びっくりしました。住宅地の真ん中でとても狭い所で、道の駅はあり得ないと思いました。まず最初に思ったのは、西大通りから入ってすぐの田んぼの所なんですけど、松野木の方は田んぼに沿って家が並んでいるし、上原は田んぼの前に新しい家が、2件建設中で、その人たちとはきっと水田の広がったとても気持ちの良いところなんんですけど、その環境を求めて多分いらしたと思うんだけども、ある日、そこに突然、道の駅ができて駐車場が広がってそこにたくさんの車が出入りする環境になるのが、まず私はそれを本当心配しました。その次に思ったのは、二の宮小学校の通学路

のすぐ近くにあるんですけど、そこは以前から抜け道で、市も危険性はわかつてくださっている、数年前に車道狭くして通れないようにするとかハンプ作るとか対応してもらっているところなんんですけど、たぶん車の数が増えて、あちこちから乗って来るので、子供たちの通学路の危険性は本当に心配です。その他にも心配なことはいっぱいあると思う。近所の人に聞くと、知っている人は新聞記事で見た、ネットで見た、人から聞いた、でも知らない人もたくさんいらっしゃって、どうしようと思ってむずむずはしてたんですけど、3月の末に担当課に聞きに行きました。4月には地区の区会で総会があるので、是非来て知らせて欲しい、知らない人がたくさんいるので、でも、職員さんは、今説明できることは何もないというふうに言っていました。4月から何せ2025年度中に基本構想を策定すると、そこで市民の意見を聞くからというふうに言われたんですね。私は、じゃあ上原・松野木が道の駅の場所として決定するのは、どこの場で誰が決めるんですかと何度も聞いたんですけど、明確なお返事はなく、聞いた時にはよく分からなかつたんですけど、後で考えると、たぶん基本構想を作るってことはもう松野木・上原が道の駅の場所としてもう決めて、それでどんな駅を作るかを考えいくところなんだなと。もう市の内部では決定事項なんだなと思いました。それで、これは皆さんに知らせなくちゃいけないと思って、どうしようかと思って、もう一度区会でもお話ししたんですけど、署名をしたらどうかと言う人がいて、署名をすることにしたんですけど、私は署名集めが第一の目的でなく、皆さん、地域の人に知って欲しいという目的で要望書を作つて、ポストに入れました。道の駅の候補地に上原・松野木は外してくださいっていう。懸念事項さつき言ったところをポストに入れました。最初、ちょっと言い忘れましたけど、新聞記事で読んだ時に残念だなと思ったのは、市から何も知らされていない。しかも、市から教えてもらえないで、いきなり新聞記事で読んだっていう、そのことがちょっと残念だなと思って、月1回市報出してくれているから、そこに載せてもらってよかったです。それで、その後、2、3回担当課の課長さんとかと話をさせていただいているうちに、市民の意見も大切になると、そのためにアンケートを取ることを考えているということで、本当に非常に多くの地区を入れて、アンケートを各家に郵送すると、賛成か反対かのアンケートだと思う。その計画があるって聞いてよかったです。だけど、その後しばらくしてから気付いたことがあって、実は昨日また担当課にお話聞きに行つたんですけど、世帯主宛てに紙1枚で送つて、アンケート賛成か反対か答えるところは一つだけって聞いたんですね。昔の、家族制度、家制度じゃない、世帯主の答えだけを聞くのかとちょっと思いました。昨日、その聞くきっかけとなつたのが、実は御夫婦で、御主人と奥様で意見が違うという人がいる、それも一組じゃなかつたんですね。しかも私署名用紙、署名書いて届けてくれる人も何人かいらっし

やるんですけど、5人のうち5人家族全部書いてあって、メモも書いてあって、僕は高校生ですけど、道の駅なんかいらないと、もっと有効に使ってくださいとメモも書いてあったし、じゃあ世帯主だけが市民で、それ以外の家族は市民でないのか、家の答えじゃなくって、市民一人一人の意見を聞いてくださるんじゃないのかって思って、このアンケートをもし取られて、どれだけの信憑性があるのかと、本当に市民の意見はこれだけですっていうのが出てきた場合に、私はやっぱり一枚の紙でもちろんいいので、何人も賛成、反対書けるようにして欲しいってお願いしたんですけど、昨日。だけど、担当の課長さんは、もう既に封筒の中身は決定して市長さんのOKも出ている、今からは変えられないと言うんですね。だったら、直接市長さんにお願いするしかないと思って、お願いしに来ました。

●市長

ありがとうございます。まず、決定しているのかと言われれば、決定していません。ですので、今、もともといくつかいろいろな所の調査をした上で、4か所候補地が出ました。そこを道の駅を専門にしているコンサルタントがありまして、そこは交通量の調査とか周辺人口とか、競合のマーケットとか、そういう調査を専門的にしてもらって、その中で上原・松野木と筑波の池田地区が、とりわけ評価が高かったと。その4か所とも、他の自治体の道の駅の環境と比べたら、極めて良い数値ですと。どこでやってもある意味、この周辺人口とか交通量だったら、規模的には十二分ですというようなコメントだったんですね。さらに、その中でも、道路の付き方とか、そういう色々な要件で特に筑波山地区が一つ、そして、上原・松野木は、そういう研究所と連携した形での従来型の道の駅に拘らない可能性があるだろうということで出てきたものです。ただあくまでまだ候補地で、地域の意向は本当に大事にしたいと思っています。ですので、まさにアンケート、とにかく地域の人とちゃんと話をしないとダメだよねという話をしていて、アンケートの案もですね、どの範囲まで聞きますかみたいなことを聞かれたんで、聞けるだけ、できるだけ広く、最大限聞けるだけ聞くようにということを答えました。さらに、アンケート案を見たんですけど、情報量が出ていなかったので、ちゃんとどういう経緯でここが選ばれたのか、ここが候補地として挙げられた評価ポイントが何で、ここで懸念される点は何なの、ちゃんとそれぞれ両方書きなよと、そうじゃないと賛成・反対かだけ書いたって書けないよ情報量が無さ過ぎてっていう話をして、そういうことも書いてもらって、とにかく地域の声をしっかり聞こうということにしました。まあいろんなものが、そういう意味ではね、1世帯1アンケートというのは、市の他のどんな計画を作る際にも、調査になつてるので、そういうことを言うとまあ考えてみたら、全部個人宛てにしなくちゃいけないのかななんてなってしまうわけですが、それこそこの間のマイナン

バーカードのですね、仕組みがあればそういうことも、一人確実に一つでできたりするんですけども、もう色々多分終わっちゃってはいて、後は発送を待つだけなのかなと思っていますが、もちろん個別にメールでいただくことも全然可能ですし、御連絡いただいたらしくすることも可能ですし、そういうのを今、単純に賛成・反対の数で決めようとか思っていなくて、判断の色々な材料にしていくので、そこで1票多かったからとか少なかったからとか、そういうような類のものではないと思っています。ただ、もちろん地域の反対がすごく多いのであれば、それは地域が望まないものを作るということはしたくないので、とは思っています。ただ、アンケートも賛成・反対の票をつけるというよりは、ちょっと今手元にありませんけど、ある程度の意見が書けたりしますし、逆に言えば、そこで家族の意見で家族の中に、何人は賛成で何人は反対ですみたいなことを書いていただければ、それはもし賛否をカウントするのであれば、そういうこともちやんとカウントはするようにしたいと思います。ただ、繰り返しますけど、賛成が多かったから、それを根拠にして何か作りますとかですね、反対が多いから一切作りませんとかっていうことでは、まあないかなと思っていますが、正直ですね、もちろん反対、御心配される方もいらっしゃると同時に、すごく切望されてる方の声も私も聞いていますし、地域の方も土地をどうしていいか困っているという話もいただいたり、いろんなお声がありますので、地域で便利な場所ができるという人も。ただ、そういうのも、これはあくまでも私が聞いている中での賛成・反対、お近くの方の賛成・反対なので、それってやっぱり正しくないので、正しくないというか、自分が見てる世界だけに私もなってしまうので、だから、とにかく広く聞いてくれということでやっています。ですので、アンケート、もうちょっと発送になってしまふかもしれませんけど。池田地区ももちろん聞きますけどね、同じようにね、どういうふうにするかは書いていただければちゃんと、その声をなかったことにとかしませんので、そこは御安心をいただければなと。

○参加者 6

今のお話を聞いて、五、六つ反論があります。

●市長

五、六つあるんですね。わかりました。

○参加者 6

冒頭に言いましたけど、3月末に聞きに行った時に、全く市民に知らせる気はないと言いました。来てくれと言ったのに行く必要がないと。最初、市は何も知らせてくれませんでした。市民の意見を聞くと言いながら、基本構想の策定の中

で、どんな道の駅を作ればよいのかの意見を聞くと言ったんです。それは違うでしようと、いるのかいらないのか、必要か不必要か、欲しいと思っているのかいらないのか、賛成か反対か、まずそれを聞くべきでしょうと、それはしてくれていません。私、五十嵐市長さんは、市民をもっと市政に关心を持って、市政に積極的に参加して欲しいと思って、市政をしてらっしゃると思っていたんですけど、今回のことでは、市民は蔑ろにされてると思いました。二つ目、調査の中身ですけど、私も情報公開請求をして、調査の報告を見ました。それで地域検討のところで、池田だけ 20 点満点の 20 点でした。上原・松野木 15 点、あと菅間と島名も 15 点、16 点でした。普通に考えると適地は池田だけと考えるのが妥当だと思います。市は総合判断して決めたって言われましたが、総合判断何かというと、きっと西大通りの交通量の多さ、地域の住民の数の多さ、競合店の少なさというので、もしここで道の駅ができたら、これだけの売上が出るだろうという数値が高かったです。それをもって決めたんじやないかとしか私は思えません。だけど、あの数字はあくまでもただの数字で、調査は一般的に全国の道の駅に当てはまる数式にただ当てはめただけだったら、各地区の特徴を捉えていないのであてになりません。もっと真剣に考えて欲しかった。それから、発送される文書にもっと道の駅の説明をする文書を入れるとおっしゃったようですが、なぜここに決めることになったかとか、それからもしできたらこれだけのメリット・デメリットがあるってことを載せるっておっしゃってましたが、私はその事前に担当職員にお願いしました。いきなり何も知らない人もたくさんいる中で、市から封筒が来て、賛成か反対かと言われても、判断しようがない。だから、私は以前ヨーロッパで国民投票か何かをやった時に、もしやるとしたらこれだけメリット・デメリットがあるというのを国民に配ってからやったということを聞いているので、それを含めてやって欲しいと私はまず言いました。三つ目、発送間近だとおっしゃいましたが、昨日確かめましたが、文書は作ったけれども、発送は委託することになっていて、それはまだ始まっていません。だから、今文書を変えることになれば変えられます。止めて、変えることはできます。それができるのは市長だけです。四つ目、備考欄に意見を書く欄があったから、そこに賛成意見を書いてもらえば、その数を数えるとおっしゃいましたが、そうするんだったら、何で最初から数を数える最初の賛成・反対の所に、家族が意見を書けるようにできないんですか。他の家族は世帯主の付属物ではありません。一人一人が市民です。市民の意見を最初から拾い上げてください。四つ目、一部の人から、あそこに作ってくれ、土地を買ってくれという意見があると聞いてるとおっしゃいましたが、それはすごく私は心外だなと思って、もっと積極的に広く市民の意見を聞いて欲しかったです。

●市長

はい、繰り返しますけども、まだと作ると決めていないので、ですので、今回。

○参加者 6

決めたと思う。

●市長

決めてないです。だって、本当に分からないですもん、アンケート取るまで。だから、ちょっと御想像をされてしまうのは、それは多分これまでの説明の仕方が足りなかつたからだと思いますけど、記者会見でも、その2か所は決まっているんですかと、私聞かれて、決まってませんと答えていますので、それが事実ですし、だって、そしたらアンケートなんかやらなくてもいいじゃないですか、賛成・反対わざわざ、私が作りたいと思っているんだだったらね。作るのを決めているんだったら。ですので、それは本当に決まっていません。職員も、これでもしね、かなり課題がたくさん出たり、地域が圧倒的反対だったら作れないよねというのは、普通に話していますので、ほんと決めてない、そこはもうお伝えをさせていただきます。それを含めて、まだ担当と話して発送が委託するという部分も、まあ今まですべて世帯調査のアンケートとかを何十年やってきて、そういう御意見がなかったので、やってきましたけど、もしそういうお声が今回あるんであれば、文書の内容に賛成・反対で、何人分作ればよいのかちょっと分かりませんけども、何人かで足りなければ追加してくださいみたいな感じで、賛成・反対のこととかを増やすことはできると思いますので、まだそういう状況であれば、それは全然聞きたくないとかではないです。ほんとに決めてませんから、それはぜひ御理解をいただければなと思います。

○参加者 6

すみません、今の段階ではそうおっしゃるのは分かるんですけど、何度も反論して申し訳ありませんが、3月の末に聞きに行った時にはね、もうこの4月から基本構想の策定を始めるんだとおっしゃったんですよ。基本構想策定するっていうことは、もう上原・松野木を作るっていうことを決めないと、策定の内容を決められないと思うんですね。だからもう内部の中では、これは決定事項なんだろうなと思いました。この間も担当の方に聞いた時には、基本構想はいつからするんですかとか聞いたんですね、そうすると、まだ決められないとおっしゃるんです。なんでかつていうと、基本構想策定の会議では、コンサルがどうしてもついてもらわなくちゃいけないから、予算執行が出てくると、上原・松野木でやるかどうか決めていないのに、予算執行がかかつちゃう基本構想はやれないって

言ったんです。今だったらそうだけれども、3月末ではもうやるって決めてたんですね。つまり、松野木・上原は決め事、内部で決めてたから、スタートしたんですよ。私が、悪いけど、もう勝手に私が思ってるんですけど、動いて何度も市に話に行ったから、考えてくださったのかなと思っていて、もし、誰も言わなかつたら、最初の3月末の職員の回答のままで動いていたんだなと私は思っています。

●市長

職員がね、その時どんなふうな言い方をしたかっていうのは、それは参加者6さんが聞かれたので、それについて私はとやかく言うつもりはないんですけど、私は記者会見で多分かなり早い段階で、決まっているんですかということに対して、はっきりと、決まってないと答えてますので、これが市の正式回答です。本当に決まっていません。だってそんなことして何のメリットもないじゃないですか。地域がすごく反対をするような計画を無理矢理やって、誰も幸せにならないし、私がそんなことをするタイプじゃないというのは、多少御理解をいただいているんじゃないかなと期待していましたけれども、ちょっと疑念を持たせてしまって申し訳ないんですが、事実としてこれまでそういうふうに答えていますし、決めていません。今回のアンケートを踏まえないと、基本構想なんか作れませんから。もしそこであれば基本構想は、じゃあちょっと待とうねということに当然なっていく可能性もありますので、そこは本当にどうか、そういうふうに思ってしまったことについて、僕が何かできるわけじゃないんですけど、決まってないし、決めていません。

○参加者6

分かりました。ありがとうございました。最後に、お答えいただいた時に、じゃあまだ印刷もしないし、発送もしていないんだったら、変える可能性があるとおっしゃっていた後に、じゃあそのアンケートの紙に何人分か書けるようにする可能性があるとおっしゃっていた時に、はっきりとそうするとおっしゃらなかつたんですけど、それはいつ検討してくださるんでしょうか。

●市長

必ず確認して御連絡するようにします。多分できると思います。担当も直接話していないので、そのことについて。もう郵便局には行っていないということですね、それではね。であれば、もちろんできると思いますが、それは参加者6さんが担当から聞いた話でしたので、僕はそれは確認しないと、ここで「はい、変えます」っていうのは、無責任だと思いますけど、それはできるようであれば当

然ります。

○参加者 6

担当課が気についていたのは、回収率だったんですね。何枚も何枚も返事があつたら、何千世帯に対する回収率が把握できないから駄目だと言われたんですけど、紙を各 1 枚にすれば 1 枚返せばそれだけで回収率は分かるわけで、1 枚の紙に何人も書けるようにすればよいだけのことなので、それはすぐにできることかと思いますし、ぜひ御検討いただきたいと思います。

●市長

はい、ちゃんと確認してできるようあればちゃんとやりますので。市民を無視したりしませんので、そこはもうずっとそのスタンスで 8 年、9 年やってきましたので、丁寧にやりたいと思います。地域が反対するなら作りません。そんなことで誰も喜びませんから。

○参加者 7

どうも、話は下手なもんですから、明るい論争をやってください。よくほら、何ていうんですか、広報とか、よくあの、市のホームページとか何とかって書いてなんて言うんですかあの、スマホだの、パソコンに出るようになったようなあれありますよね。

●市長

QR コードですかね。

○参加者 7

おれらみたいな田舎育ちの年寄りではああいうのがあってもわかんねような気がして、ここに育つて関心ある人いるわけですよ。そうすと、つくば今は学歴のある人はたくさんいますよね。だからそういった不都合、おじさん世代ではパソコンなんか仕事で使わない限りわかんないんですよ。だから、あんまりね、QR コードとかホームページじゃなくて、担当課はここですからって書いていただければ、幸いです。

●市長

ありがとうございます。担当課は多分、全部、書いてあると思うんですよね。

○参加者 7

そっか、じゃあそこさ聞けばいいんだね。

●市長

担当部署っていうのが、例えば、青のカフェだと、担当がこども未来センターとか、全部にそれは入れるようにしてあると。自転車はサイクルコミュニティ推進室とかですね。

○参加者 7

それをしないと困っちゃうもんな。

●市長

確かに、そのね。これ（広報紙を手に取る）ですよね。こういうのがちょっとよくわからないと思うので、もうここに担当課が必ず全部、問合せ先として、これは社会福祉課とか、これは環境政策課っていう問合せ先全部載せてありますので、遠慮なくお電話を。ここに代表電話が一番下に全てのページに書いてありますのでここで何々課に繋いでって言っていただければ、ちゃんと繋ぐようにしますので。

○参加者 7

一番困っちゃうから。

●市長

そうですよね。デジタルでね。

○参加者 7

3年分くらい取つとくんだけんと。

●市長

すごい、貴重な文書。

●市長

あと、スマホは確かに使いにくい方もいらっしゃるんですけど、実はスマホ教室も今はかなり力を入れてやっていて、最初はやっぱり皆さん戸惑うんですけど、使い始めると意外となんか孫と、やりとりしたみたいなので、1回よかったです。首振られてますけど。

○参加者 7

危ない。

●市長

危ない。

○参加者 7

危ない電話がかかってくるんですよ。携帯に。料金払ってねえなんて。

●市長

ありますよね。まあ確かに、一番のセキュリティはね、そういうのを持たない、繋がないことだと思うんですけども。確かにそのとおりではあります。

○参加者 8

花畠の参加者 8 です。いつもありがとうございます。簡単に済ませたいと思います。まず 1 点ですね、今日資料の方で普通高校から大学進学以外の道っていうのを、もっと認知を広めるべきだっていう話があったんですけど、私もそれに非常に賛成で、逆にその、今、科学技術で世界のあしたってっていうことを言ってますけれども、そういう価値観が広まる世界っていうのを、よりアピールして、そのための手段としての技術っていうようなところで、現状の延長線上じゃないところに世界のあしたがあるっていうところはもうちょっと、今日、非常に賛同した御意見だったので、そこは強調していただけたほうがいいんじゃないかなと思いました。肝心な点はですね。15 分都市のお話のところです。今日意見交換の中で区域指定の拡大を今後数年されるっていうふうにおっしゃられたんですけども、これが 15 分都市として逆の、逆行する流れにもなっていて、拡大は今インフラのないところに拡大するわけですので、八潮の件とかも考えれば、既存がある中で新設がさらに増えるというのは将来負担になりかねないんじゃないかいいうところを懸念するところで。15 分都市の実現というところにおいては、徒歩の 15 分っていうことをおっしゃられてる。徒歩の 15 分って、ほとんどつくばで実現できることないんですよね。ここはできるんですけども。つくばでやるのであれば、徒歩だけじゃなくて当然あの、フランスとかの 15 分都市の概念って自転車も含んでいますし、自転車だけじゃなくて、自家用車どうしても手放さないですから車で 15 分とかも含めたつくばモデル的な 15 分都市っていうところが必要なのかなと。当然免許がない人は公共交通を依存せざるを得

ないので、公共交通基盤の部分というところ、こここの交流センターのところも、10年前には、交通結節点の構想ありましたけれども諸々の状況でなくなってしまった。15分としてやろうとしたらやっぱり、結節点になるところっていうところを、長期的な展望に立って、どことどこに、結節するところを置いて、そこをきちんとお金を取って整備しますっていうようなビジョンがいいかなと思います。ここはもう御存知のように、周辺の高校の私立も県立も含めて、バスが来るんですけれども、こちらなんかは、ウエルシアの前に路駐して、子供を乗せたり降ろしたりしてますし、中に入らずに周りで、移動してのようなところで、保護者の方の送迎も、あるけれども、当然子供たちが帰ってくる頃ってもう暗いんですね冬になると。でも、周り、何もないし交流センターも閉まってこっちの体育館は空いてますけれども、そういうところで、子供たちが、集まれるようなところも兼ねた結節点っていうのを、長期的な展望に則ってやっていただければ、時間の有効活用という意味で、通学時間が長くても有効に使えば、高校遠くてもいいんですよ。市内に高校なくてもいい。いいんでそういう複合的な観点での、15分都市、単純に徒歩15分っていうだけじゃなくてもうちょっと厚みを持ったところのプランをいただければなと思います。僕の意見なんであんまり回答の時間もあれですが。

●市長

いえいえそんなことないです。ありがとうございます。いつも建設的な御意見をいただいて。15分都市で、区域指定の拡大がっていうところからいくと、確かに新たなインフラ整備が必要だという要素もありますが、基本的には区域指定の条件と、インフラ整備ってある程度リンクしてるとことなので、区域指定をしていたのが平成18年なんですけれども、実は、その後、それこそインフラが、上下水道含めてかなり普及してるわけですよね。でもその時から基準が基本変わっていないので、今、実はそのインフラが、平成18年のステージから、どういうふうに更新されているかということを、全部調査をかけているところです。それで、こういう部分だったらもう拡大しても大丈夫かなというような見方をしていますので、特にまあ区域指定、市街化との距離感とも含めてありますけれども、インフラを何でもかんでもそこに突っ込んでいくということではない形の拡大の仕方をしたいと思っています。複合的なというのはまさにおっしゃるとおりで、私は今日、もう時間なかったんですけど、もっと詳細に説明するのだと、何言ってるかっていうと、基本周辺8市街地の15分都市を作ります。そこは、徒歩が15分です。ただ、それって本当に限られてる話なので、まさに今お話をされた、そこに、その周りの皆さんには、どこかの8市街地に、公共交通で15分で行けるようにということは、条件として実は入れています。それでもどうしても

補えていないとき、テクノロジーでね、補いますよというような形で、実は自転車がね、入れるか入れないかは、正直書くとき悩んだんです。ただ、自転車だとかなり広くなっちゃうので、何かそれじゃあ、幾らでもできちゃうじやんっていう風に、こうなってしまうなというか、その行動範囲が、要するに、そこにある程度、15分都市というのは、公的機関とか、商品とかクリニックとか、地域の緑地とかそういうのを、ある程度ちゃんと集積してまさにある程度再投資も含めてしていくことになるわけですが、それが充足されてなければ。でも、自転車で15分にしてしまうと、その充足されている地域が広くとれちゃうので、じゃあ行けるからいいよねってなっちゃうのは、ちょっと行政として、何かメッセージとして、ちょっとこう、ズるいというかですね、なっちゃうかなと思って、徒歩15分にしたんですが、自転車、加えられたらいいなと正直、いいですかね、自転車入れても。

○参加者8

中高生は自転車にならざるを得ないので、彼らのことを考えた生活を中心つていうのを、結局今だとこの辺でも、中高生の、ここはまだしも、他のところ、充足できるかは結局研究学園に行かなきやならない。そうするともう、自転車でも15分どころじゃない距離になるんで、例えば大穂中からここだったら自転車で15分の距離じやん。そういう観点で中学校区、本来の中学校区ぐらいの規模感で、やっていくんじゃないかなというふうに思います。

●市長

ありがとうございます、自転車はまあね、自転車で積極的にアシストなどで、かなり高齢の方も、実はこの間茎崎からそれこそ大穂まで行ったなんていうアシスト自転車で。すごいですねって、でもほんとアシスト楽だよみたいな話もして。行動範囲が広がるように早いうちからしたいなと思って、今回65歳以上と拡大したりしていますので、やりたいなと。そういうような自転車の充実はどんどんしたいと。それから、ここもですねまさに、バスで入れないんですよ。あそこが。あの木を切るかどうか、というのを。どう思われます。

○参加者8

それは反対が多い。であればルートを変えるべき。ここを通るからいけないのであって。

●市長

いろいろ関鉄とも相談してるんですけど、そうなんですよね。やっぱり桜の木を

切ってしまうと、それは結構ね。でも中に入れたいじゃないですか。変えるルートがなかなか関鉄とも相談したんですけどなくて、どうしたものかなっていうので、いずれにせよ、この場所はこの地域の大きな、結節点となることは間違いないですし、参加者8さんにも御意見いただいて、あそこでもまだまだ不十分な土地かと思いますけど、居場所として、なんか机とか椅子とかもうちょっとなんか、快適なものにしたら良かったなと思ってるんですが。まさに、待っている間に子供たちが勉強できたりする場所としてこの間も行ったら、結構高校生たちが使ったりしてたのでああ良かったなと思って。上も、遮光にしたりですね、やったりしますので、まさに人が集まつてくる場所にちゃんと、投資をしていくという、これからもやっていきたいと思いますし、いただいた御意見と15分都市など色々反映させていただきます、いつもありがとうございます。